

一般社団法人大学英語教育学会 (JACET) 中部支部 2025 年度第 2 回定例研究会・講演会 プログラム

日時：2026 年 3 月 7 日 (土) 13 時 30 分～17 時 00 分

会場：愛知大学 名古屋校舎 講義棟 3 階 L307、L310 教室

参加方法：JACET 中部支部ホームページ (<https://jacet-chubu.org/studygroup/>) より、事前
に参加申し込みをお願いします (参加無料)

L307 13 時 30 分～13 時 35 分
開会挨拶 支部長 藤原 康弘 (名城大学)

第 1 室 L307 司会：今井 隆夫 (南山大学)

【研究発表】 13 時 40 分～14 時 10 分

Students' perceptions of English usage in high school English classes and university
EAP courses OYABU Kana (Kanazawa University)

【研究発表】 14 時 15 分～14 時 45 分

第二言語理解における事前知識の役割と言語能力測定の再検討—日本人・ドイツ人における正
情報/誤情報設問の比較— 安藤 百花 (名古屋市立大学・学部生)

第 2 室 L310 司会：藤田 賢 (愛知学院大学)

【研究発表】 13 時 40 分～14 時 10 分

音読と黙読の記憶定着への効果 酒井 日陽 (名古屋市立大学・学部生)

【実践報告】 14 時 15 分～14 時 45 分

英語プレゼンテーション実践における学生の自己評価基準の形成— 肯定的評価と課題意識の
併存に着目して — 松家 鮎美 (岐阜薬科大学)

L307 14 時 55 分～15 時 35 分

【研究会ワークショップ】 「授業学研究会 (中部)」

「メディア英語科目のデジタルリテラシー」

吉枝 恵 (愛知淑徳大学)

L307 15 時 40 分～17 時 00 分

【講演】

「クロスメディアを活用した学習研究の紹介」

司会 佐藤 雄大 (名古屋外国語大学)

尾関 智恵 (岐阜大学)

L307 17 時 00 分～17 時 10 分

閉会挨拶 副支部長 梶浦 眞由美 (名古屋市立大学)

発表概要

第1室 L307 司会：今井 隆夫（南山大学）

研究発表 13時40分～14時10分

Students' perceptions of English usage in high school English classes and university EAP courses

OYABU Kana (Kanazawa University)

This study investigates first-year university students' perceptions of English education in high school and in their first-year English for Academic Purposes (EAP) courses. The academic year 2025 marks the first cohort of students who entered university after completing their secondary education under the new Course of Study set by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT, 2018). Although the Course of Study outlines English language education at school, students' actual learning experiences may differ. A questionnaire was administered in October 2025 to 527 first-year students enrolled in a national university in the Chubu/Hokuriku area of Japan. The results indicate that instructors and students in the university EAP courses used substantially more English and engaged more frequently in oral interaction activities while high school English classes emphasized more receptive skills and translation. These differences suggest that despite the MEXT directive to use mainly English in class, students may lack such experience and require more explicit transitional support—such as orientation to course expectations, scaffolding for interactive tasks, and targeted practice in classroom English—to help them adjust successfully to the linguistic and pedagogical demands of university-level EAP instruction.

研究発表 14時15分～14時45分

第二言語理解における事前知識の役割と言語能力測定の再検討—日本人・ドイツ人における正情報/誤情報設問の比較—

安藤 百花（名古屋市立大学・学部生）

第二言語理解において、学習者が有する事前知識や常識が、理解を促進する場合と障害する場合がある点に着目し、その影響を実験的に検討した。先行研究において英語と系統的・典型的に近縁とされるドイツ語と、距離があるとされる日本語の言語背景の差に着目し、英語を第二言語とする日本人およびドイツ人学習者を比較対象にした上で、正情報設問（読解内容が既存の一般知識と一致する設問）と誤情報設問（読解内容が既存の一般知識と不一致である設問）を含むリーディングおよびリスニング課題を実施した。両国籍に共通して、誤情報設問の正答率は正情報設問よりも大きく低下した。これは、誤情報設問では事前知識に基づく推測が通用せず、入力情報を精緻に処理し、ボトムアップ処理によって文中情報と事前知識を適切に照合・選択する能力が強く求められるためと考えられる。また、読解聴解の技能差が小さいドイツ人に比べて、リスニングが苦手な日本人学習者では誤情報設問においてのみ技能差が明確に現れ、処理の精度が習熟度によって左右されることが示唆された。さらに、日独両群において、誤情報設問では課題難易度の上昇に伴う得点低下が一貫して観察され、TOEIC スコアとの有意な関連も確認された。以上より、事前知識に依存しにくく、入力情報の精密な処理を要求する誤情報設問は、第二言語における実際の言語処理能力および習熟度を、正情報設問よりも的確に反映することが示された。つまり、必ずしも誤情報設問そのものを用いなくとも、常識や事前知識から容易に推測できず、内容の展開や説明が予測しにくい問題の方が、学習者に対して入力情報の精密な処理を要求する点において、英語の熟達度を計測する上でより有効である可能性が示唆された。本研究は、第二言語能力評価における設問設計に新たな視点を提供するものであると考える。

研究発表 13時40分～14時10分

音読と黙読の記憶定着への効果

酒井 日陽（名古屋市立大学・学部生）

本論文は、単文または英単語の学習時において、音読または黙読が記憶定着にどのような効果を与えるかについて調査した。実験では、参加者51名に対し、単文を黙読または音読で暗記した後、単文を穴埋めするテスト、英単語を音読または黙読で暗記した後、覚えた単語を意味通りに選択するテストを行った。テストの結果は、単文課題において音読条件または黙読条件の平均点から、有意な差は見られなかった。一方で、単語課題においては、音読条件または黙読条件のテストの平均点は、黙読条件のほうが音読条件よりも得点が高く、2つの条件において有意な差が認められた。また、学習スタイルの好みを考慮し、参加者を「音読好き」「黙読好き」に分けて分析を行うと、単語課題では有意な差はなかったものの、単文課題では「音読好き」において有意な差が見られた。単語の暗記という、理解を含まない「暗記」だけのプロセスにおいては、音読よりも黙読のほうが優位に働く一方で、単文課題のように文構造を理解するというプロセスにおいては、学習者それぞれの学習スタイルの好みが影響を与えられ考えられる。参加者が読みにくいと判断した単語の正答率は、音読条件、黙読条件の両方において、読み易いと判断された単語の正答率よりも低く、有意な差が見られたことから、黙読条件においても、頭の中で音読同様に構音リハーサルが行われている可能性が示唆された。

研究発表 14時15分～14時45分

英語プレゼンテーション実践における学生の自己評価基準の形成— 肯定的評価と課題意識の併存に着目して—

松家 鮎美（岐阜薬科大学）

本研究の目的は、英語プレゼンテーション経験を通して、学生が自身の発表をどのような観点から捉えるようになるのかを明らかにすることである。本研究では、学習初期段階にある学習者が、発表経験を通してどのような自己評価基準を形成していくのかに焦点を当て、大学1年生を対象に英語プレゼンテーション活動を実施した。発表後に、選択式アンケートおよび自由記述を用いてデータを収集し、量的傾向の把握と記述内容の質的分析を行った。その結果、選択式アンケートでは、発表に対する肯定的な自己評価が多く見られた一方、自由記述では、発表を振り返る中で課題や改善点が具体的に言語化されていた。特に、英語の正確さや流暢さといった言語面よりも、構成の明確さ、簡潔な表現、イントネーション、聞き手への配慮、グループでの協働的な準備過程などが、自己評価の重要な観点として挙げられていた。以上の結果から、英語プレゼンテーション経験は、発表結果に対する主観的な捉え方にとどまらず、発表の質を多面的に捉える評価観を形成する機会となっていることが示唆される。

研究会ワークショップ 14時55分～15時35分

【授業学研究会(中部)】

「メディア英語科目のデジタルリテラシー」

吉枝 恵(愛知淑徳大学)

メディア英語科目では、学生にとって日常の一部のようにしている SNS に、彼らが英語で投稿する活動を実施しています。

今季は投稿にあたり、学生の半数が AI を使用しました。ワークショップでは、その際に行ったりテラシー教育を、投稿体験をしながら紹介します。参加者の皆様には AI による画像の作成をしていただき、投稿までのステップでどのようなデジタルリテラシーがリスクを減らし、安全な英語活動として実施できるか一緒に考察したいと思います。

講演 15時40分～17時00分

クロスメディアを活用した学習研究の紹介

尾関 智恵(岐阜大学)

近年、メタバースや触覚技術(ハプティクス)、マルチモーダルインタフェースといった新たなメディア技術が急速に発展しており、学習環境のあり方を大きく変えつつあります。本講演では、これらの技術を用いた実践研究の事例を紹介しながら、複数のメディアをまたいで学習体験を設計する「クロスメディア学習」の認知科学的な意義について議論します。特に、言語学習との関連に着目し、身体性や感覚的フィードバックが外国語習得にどのような影響を与えるか、また仮想空間を含む多様なメディア環境が学習者の動機づけや認知処理にもたらす新しい側面について考察します。

【講師紹介】

尾関 智恵(おぜき ともえ)

岐阜大学 博士(工学)取得。

問題解決方略の創出・多様な学習活動の促進が期待できるヒトとロボットの社会的関係をデザインするため、ヒューマンエージェントインタラクション・ヒューマンロボットインタラクション研究を進めている。焦点を当てているのは向社会的行動と服薬アドヒアランスで、社会的相互作用の中でこれらの行動やモチベーションが発生するかのメカニズムを調査している。同時にロボット開発技術者教育・人材育成の更なる向上を目指している。専門は認知科学(HAI、HRI、問題解決、熟達化、学習科学)、情報科学、教育工学。

会場のご案内

愛知大学 名古屋校舎 講義棟3階 L307・L310 教室
〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6



■ フロアガイド

厚生棟	
10F	学生サークル室・学生会議室
9F	学生サークル室・学生会議室
8F	学生サークル室
7F	スタジオ・武道場・多目的競技室・和室
6F	アリーナ(体育館)・フィットネスルーム
5F	グローバルラウンジ・さくら21リソースルーム・総務課 教務課・学生課・国際交流課・保健室・ 学生相談室・ボランティアセンター・スポーツ支援センター
4F	キャリア支援センター(キャリア支援課) 地域連携推進事務局・メディアゾーン・情報システム課
3F	図書館・国際ビジネスセンター・国際中国学研究センター ささしま地域連携研究センター・研究所・学生会
2F	図書館
1F	キャンパスレストラン

※2024年4月現在のものです。※

<https://www.aichi-u.ac.jp/>

講義棟

11F	教室・学生ラウンジ
10F	教室・学生ラウンジ
9F	教室・学生ラウンジ
8F	教室・公務員志望者学習室
7F	教室・公務員志望者学習室・ゼミ室
6F	教室・ゼミ室・教職課程センター室
5F	教室・ゼミ室
4F	教室・ゼミ室・グループ学習室
3F	教室・ゼミ室・グループ学習室・学生生活支援室
2F	教室・学生ホール・広報課
1F	フードコート・店舗・防災センター

連絡
ブリッジ

連絡
デッキ

上空
通路

上空
通路

本館(研究棟)

20F	スカイラウンジ・会議室
19F	スカイウォーク・会議室
18F	スカイウォーク・研究室
17F	エコポイド・スカイウォーク・研究室
16F	研究室
15F	研究室
14F	研究室
13F	研究室
12F	研究室
11F	研究室
10F	研究室
9F	研究室
8F	研究室
7F	教室・共同研究室
6F	大学院生フロア
5F	学習・教育支援センター 講師控室
4F	教室・大学院事務課
3F	教室・ゼミ室
2F	ラーニング commons
1F	総合受付・ 防災センター

グローバル
コンベンション
ホール

ささしまライブ」駅まで「歩行者デッキ」で接続しています。 ※各棟を2Fと5Fの通路で接続しています。

鉄道をご利用の場合：「名古屋」駅より徒歩約10分

あおなみ線「ささしまライブ」駅下車 歩行者デッキ直通
近鉄「米野」駅下車 徒歩約5分

バスをご利用の場合：ささしまウェルカムバス「ささしまライブ」下車

名鉄バス「愛知大学前」下車
名古屋市営バス「ささしまライブ」下車

懇親会のご案内

場所: Osteria L'amante Nagoya Global Gate

<https://shops.globalgate.nagoya/shop/detail.php?id=223>

参加費: 5,000 円程度

懇親会申し込み期限: 2026 年 3 月 5 日 (木)

準備の都合上、参加ご希望の方は上記締め切り日までに、JACET 中部支部ホームページよりお申し込みください。情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

事務局からのお知らせ

☆ JACET 中部支部 **2026 年度 JACET 中部支部大会**を **2026 年 6 月 27 日 (土)**に開催します。

研究発表申し込みに関する詳細は、追って中部支部ホームページ
<https://jacet-chubu.org/convention/>)にてご案内いたします。



どうぞ皆様、日ごろの研究成果をご発表いただけますようお願いいたします。

JACET中部 HP

お問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。
支部事務局: 愛知工業大学 藤村敬次研究室内 jacetchubu@gmail.com